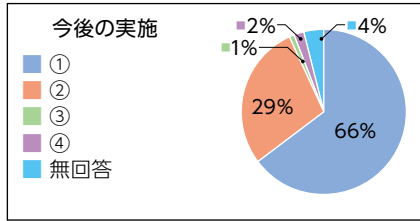


(7)市では、今回初めて全市的な避難訓練を実施しましたが、今後も実施すべきと思いますか？

回答項目	計
① 毎年実施すべき	140
② 数年に一度実施すべき	61
③ 組織等で実施すべき	1
④ 必要はない	2
無回答	9

・避難訓練は、ほとんどの組織が実施すべきとしている。



(8)市では、今後どのような訓練をすべきと思いますか？ 多数意見

- ・3.11を風化させることのないよう今回同様の訓練を毎年実施すべき。
- ・地域毎、ブロック毎、沿岸部と内陸部に分けて行った方が良い。

(9)訓練の反省点・感じたこと 多数意見

- ・若年層や子どもの父母世代の参加が少なかった。
- ・高齢者や障害者等災害時要援護者の避難のあり方を検討すべき。

(10)市への要望・意見 多数意見

- ・防災無線が聞き取りにくかった。難聴地区を解消して欲しい。早期増設を望む。
- ・避難道路、避難ビルを早期に整備して欲しい。

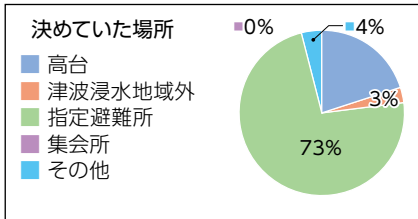
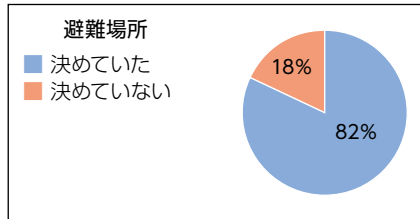
3 戸別訪問調査集計結果

市では、訓練実施後に「避難場所を決めているか」、「非常用持出品を準備しているか」、「訓練時に初期行動、非常用持出品の確認訓練を実施したか」、「訓練時に避難をしなかった理由」等を確認するために訪問調査を実施しました。(本庁地区:269世帯)

(1)戸別訪問調査実施数 旧市内269世帯(790人) (単位:世帯)

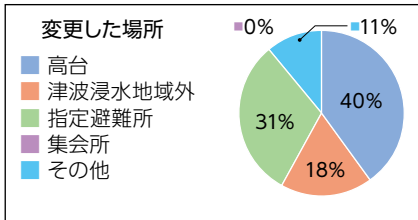
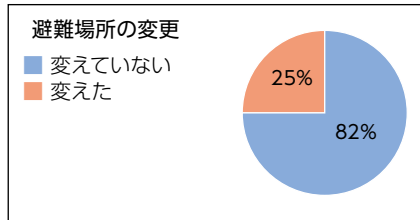
門脇・中央・住吉	釜・大街道	中里	蛇田	水明・大橋	駅前北通り	湊	渡波
22	11	50	35	28	39	44	40

(2)あなたの家庭では、訓練を実施する前の段階で津波が発生した場合、避難する場所を決めていましたか？



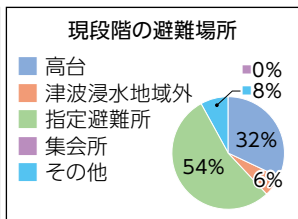
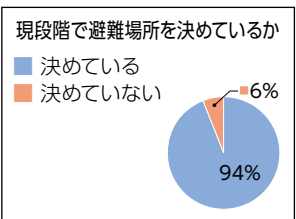
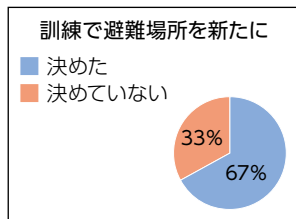
・訓練を実施する前から避難場所を決めていた世帯は82% ・避難場所は、71%が指定避難所としている。
・その他は、近隣のビル等である。

(3)【(2)で決めていたとした世帯】津波から避難する場所について、改めて相談し場所を変更しましたか？



・避難場所を変えた世帯は25%で、高台等に変えた世帯が多い。 ・その他は、近隣のビル等である。

(4)【(2)で決めていないとした世帯】訓練実施後、あなたの家庭では津波から避難する場所を新たに決めましたか？



・避難する場所を決めていなかった世帯のうち、70%近くの世帯で避難場所を決めている。
・訓練の実施により、避難場所を決めている世帯は82%から94%と増加した。

平成24年度石巻市総合防災訓練 地震・津波避難訓練の結果・検証

市では、先に「とにかく にげっぺ!」のスローガンのもと行った、地震・津波避難訓練の検証を行いましたのでお知らせします。

1 訓練概要

とき 平成24年7月8日(日) 地震発生 :午前7時12分
大津波警報発表 :午前7時15分
津波到達予想時刻 :午前7時45分

訓練内容

- ・初期行動の確認、非常用持出品の確認、避難経路の確認、避難所要時間の確認
- 地震発生、大津波警報の広報
- ・防災行政無線によるサイレン吹鳴および広報、災害情報メールによる配信、ラジオ石巻による生放送特別番組

2 自主防災組織・町内(区)会等アンケート集計結果

(1)アンケート回収率 69%(213組織)

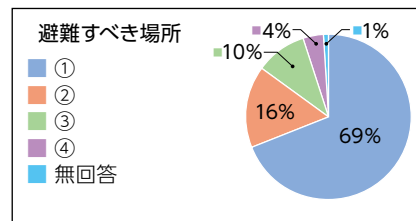
(2)参加者数 (単位:世帯・人)

	地区世帯数	地区住民数	参加世帯数	参加世帯率	参加住民数	参加住民率
本庁	24,348	60,293	4,822	19.8%	9,053	15.0%
河北	2,402	6,611	1,191	49.6%	2,189	33.1%
雄勝	208	412	115	55.3%	328	79.6%
河南	3,142	8,339	1,124	35.8%	1,507	18.1%
桃生	1,944	5,206	894	46.0%	1,541	29.6%
北上	366	697	100	27.3%	355	50.9%
牡鹿	670	1,369	238	35.5%	420	30.7%
計	33,080	82,927	8,484	25.6%	15,393	18.6%

(3)組織等では、避難すべき場所を決めていますか？

回答項目	計
① 防災会、町内(区)会として決めている	146
② 明確には決めていない	33
③ 各世帯で決めてもらっている	22
④ 決めていない	9
無回答	3

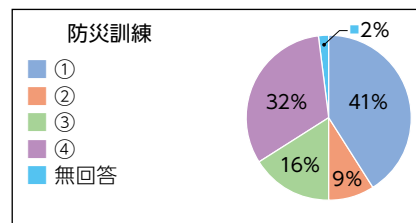
・避難すべき場所はほとんどの組織や世帯で決めている。



(4)組織等では、毎年、防災訓練を実施していますか？

回答項目	計
① 毎年実施している	88
② 2年に一度くらい実施している	19
③ 数年に一度くらい実施している	34
④ 実施していない	67
無回答	5

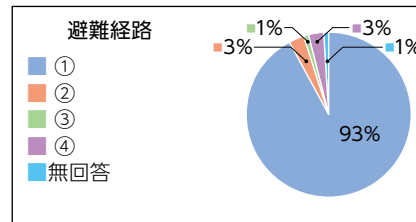
・毎年、訓練を実施している組織等は41%となっている。
・訓練を実施していない組織等も32%ある。



(5)避難経路は、おおむね安全でしたか？

回答項目	計
① おおむね安全である	197
② 一部危険箇所がある	7
③ 障害物があり、通行できない	1
④ 避難はしなかった	7
無回答	7

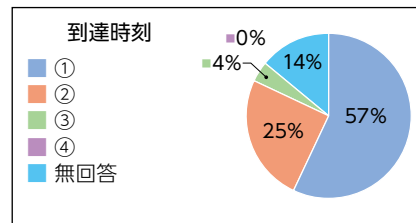
・避難するための経路はおおむね安全な状況となっている。
・一部危険、通行できないといった地点は今後改善が必要である。



(6)おおむね津波到達予想時刻(30分)で避難できましたか？

回答項目	計
① 全員30分以内で避難できた	120
② おおむね30分以内に避難できた	53
③ 31分以上かかった者もいた	9
④ ほとんど31分以上かかった	0
無回答	29

・ほとんどの住民が、30分以内で避難できている。
・31分以上かかった住民も4%いる。



まちの話題

雄勝地区



子どもサミット in 雄勝

9月22日(土)
おがつ店こ屋街

子どもたちが地域の未来について考える「子どもサミットin雄勝」が開かれました。参加したのは雄勝町内の小中学生10人。またゲストには、横浜市で子どものためのまち「ミニヨコハマ」を作っている小学生を迎えました。

現在の雄勝中1年生が雄勝小6年生の時に卒業制作で作った未来の雄勝の模型を改めて発表し、復興後のまちについて意見を出し合いました。会場では「課外授業！こどもの化学実験室」も開催されました。

河北地区



山形県河北町で 友好都市交流記念事業

9月15日(土) ・スポーツ少年団野球交流戦 ・石巻焼きそばどんが祭り出店
9月16日(日) ・「紅花資料館」「谷地どんが祭り」見学

「友好都市交流記念事業」として、山形県河北町、石巻市、徳島県藍住町の3市町のスポーツ少年団が野球の交流戦を行い、友情の輪を広げました。

翌日は、「友好都市被災者支援事業」として招待を受けた河北地区の仮設住宅の皆さんと一緒に「紅花資料館」「谷地どんが祭り」等を見学しました。

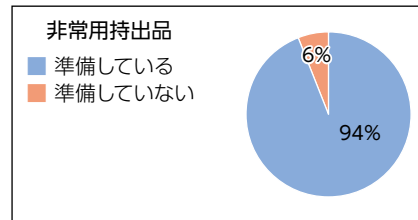
また、どんがまつりには、独特のダシをきかせた麺が好評のB級グルメ「石巻焼きそば」も参加し、食文化の交流も図りました。

(9)その他訓練についての感想・意見

今回同様の訓練は実施すべき	40
訓練は地域毎に実施した方がよい	41
若年層(20~40代)の参加が少ない	2
もっと事前広報をすべき	4
防災無線が聞こえない、増設して欲しい	65
戸別受信機が欲しい	12
津波ビル、タワーの早期整備	6
避難道路の早期整備	4

- ・「今回同様の訓練を実施すべき」という意見も多いが、一方で「地域毎に実施した方がよい」といった意見も多い。
- ・自主防災組織・町内会等へのアンケート同様、防災無線への意見が多い。

(5)あなたの家庭では、非常用持出品を準備していますか？

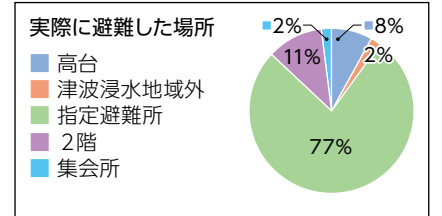
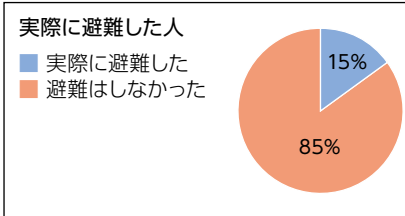


- ・非常用持出品を準備している世帯は94%で、ほとんどの家庭で準備されている。
- ・今回の訓練では、非常用持出品の確認も訓練項目に加えているのでその成果が見受けられる。

(6)避難訓練参加状況

(単位:人)

世代	実際に避難した	避難しなかった	参加率
~10代	12	118	9.2%
20代	1	37	2.6%
30代	8	75	9.6%
40代	14	82	14.6%
50代	20	81	19.8%
60代	21	106	16.5%
70代	35	113	23.6%
80代~	10	57	14.9%
計	121	669	15.3%

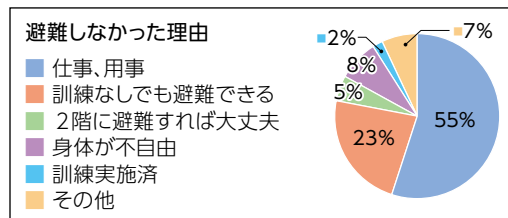


- ・戸別訪問調査では実際に避難した住民は15.3%であった。
- ・年代別に参加率をみると、自主防災組織・町内会等のアンケートでも意見が多かった若年層の世代の参加率が低い。
- ・避難場所では、指定避難所が77%と多い。

(7)避難しなかった理由

(単位:人)

仕事・その他用事	訓練しなくても避難できる	2階に避難すれば大丈夫	身体の不自由	町内会や家族で実施済	その他	計
369	155	29	55	12	49	669

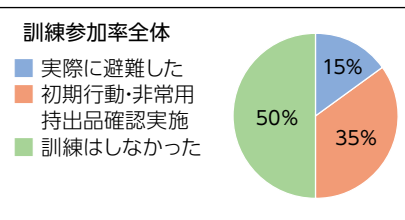


- ・実際に避難しなかった理由は、70代以下の世代では「仕事、その他用事」で参加できなかった住民が多い。
- ・80代以上の世代となると足腰が悪くて避難しなかった住民が多い。
- ・訓練では避難しなかったが、本番では避難できるといった住民も23%いる。
- ・その他では、訓練の実施を知らなかった、自主防災組織・町内会等での参加がなかったから等である。

(8)初期行動・非常用持出品確認の実施

(単位:人)

世代	調査数	避難しなかった人	避難した人	初期行動・非常用持出品訓練は実施した人	参加率		
					実際に避難	初期行動・非常用持出品訓練のみ	訓練参加率全体
~10代	130	118	12	30	9.2%	23.1%	32.3%
20代	38	37	1	10	2.6%	26.3%	28.9%
30代	83	75	8	28	9.6%	33.7%	43.4%
40代	96	82	14	28	14.6%	29.2%	43.8%
50代	101	81	20	31	19.8%	30.7%	50.5%
60代	127	106	21	61	16.5%	48.0%	64.6%
70代	148	113	35	54	23.6%	36.5%	60.1%
80代~	67	57	10	33	14.9%	49.3%	64.2%
計	790	669	121	275	15.3%	34.8%	50.1%



- ・今回の訓練では、①初期行動の確認、②非常用持出品の確認、③避難経路の確認、④避難所要時間の確認の4つの訓練項目を設けていたが、初期行動や非常用持出品の確認だけ実施した住民も加えると、50.1%の住民が今回の訓練に参加した。

4 東北大学災害科学国際研究所による検証結果、意見

(1)本訓練は「津波から避難する場所」を見直す良い機会となった。

本訓練実施の後、戸別訪問調査にて避難場所に関する調査を行った。訓練を実施する前に、「津波から避難する場所」を決めていた世帯は、調査対象世帯の8割を超えていたものの、18%の世帯では、そのような場所を事前に決めていなかった。しかしながら、これらの世帯のうち約7割の世帯が、訓練を行った上で、家庭において新たに「津波から避難する場所」を決めている。また、高台を事前に「津波から避難する場所」を決めていた世帯においても、高台への訓練を経ることで、より適切な避難場所を再考し、変更した世帯も存在する。一般的な避難訓練は「逃げる場所が決まっている」のに対し、今回の訓練は「とにかく逃げてください。逃げる場所は自身で決めてください」といった住民の自主性を尊重する訓練であった。このような訓練の趣旨・意図は、上記のとおり、住民自身が自ら「津波から避難する場所」を考える良い機会であったことが伺える。

(2)地震や津波の発生に関する情報については、普段から複数の情報収集手段を確保しておくべき。

本訓練では、地震の発生や大津波警報の想定情報が、防災行政無線、災害情報メール、ラジオ石巻といった3つの方法で発信された。以前、東北大学で行った調査では、自治体が津波警報を発信している手段を複数保有しているのに対し、住民側では津波警報を聞くことのできる手段を1つしかもっていない人が多くいることが明らかになった。実際の場面においては、津波の前の地震のゆれによって、通信機器が損傷し、上述のような発信手段が機能しないような場合も想定される。情報を受取る住民側も、複数の手段を常に準備しておくことで、「情報の受取りもれ」の可能性を低くすることができる。訓練後の住民からの意見では、「防災無線が聞こえない」「戸別受信機が欲しい」といった意見が多く見られた。情報の発信する側の責務として、市としても早期に検討されたい。情報伝達は、発信側と受信側の体制があって成立するため、重要な改善点である。

(3)避難訓練の参加割合は比較的高いものの、今後の改善を要する。

避難訓練への参加割合は、速報値では11.6%、自主防災組織等を対象にした調査では18.6%、本庁地区内を対象にした戸別訪問調査では15.3%であった。過去1年間の避難訓練への全国の参加割合は9.4%注(1)であることから、これに比べて石巻市の避難訓練の参加割合は比較的高いと言える注(2)。しかしながら、残り、7~8割は参加していないことを踏まえると、今後、避難訓練の参加者の増加に向けた検討が必要である。戸別訪問調査において、避難しなかった理由として、「訓練しなくても避難できる」と回答した人は23.1%にのぼる。災害時には、「普段やっていることしかできない。普段やっていることも満足にできない。普段やっていないことはぜったいにできない」と言われている。(1)で述べたように訓練によって適切な避難場所を自ら見直す良い機会であったことから、今回のような訓練は市全体の人的被害の軽減につながると考えられるため、より多くの参加が望まれる。

注 記 (1)参考文献:ライフメディア リサーチバンク「震災対策に関する調査」

http://research.lifemedia.jp/2012/08/120829_earthquake.html

(2)調査条件が異なるためそのまま比較することはできないが参考値として示す。

東北大学災害科学国際研究所 佐藤翔輔、今井健太郎

5 訓練検証

(1)訓練参加者

- ・7月8日訓練実施後の速報値(指定避難所、津波浸水域へのルート地点への職員配置による集計)では、11.6%という参加率でありましたが、自主防災組織・町内会等へのアンケート結果では約19%、戸別訪問調査による集計では、初期行動や非常用持出品の確認を実施した方を含めると50.1%となり、約半数の方が今回の訓練に際し何らかの行動をとったことが確認されました。このことから、地震・津波に対する日頃からの防災意識の向上が図られたものと思われます。
- ・ただし、実際に避難した住民は2割にとどまっており、実際に避難しなかった理由の5割以上が「仕事、その他用事のため」としていることから、今後の訓練では、曜日、時間の設定について検討します。しかしながら、災害はいつ発生するか分かりません。より多くの住民に避難訓練に参加して頂くために、また、10代から40代の参加率が低いことから自主防災会や町内会だけでなく、学校や企業等とも連携を図る等の検討も行います。
- ・戸別訪問調査では、訓練しなくても避難できるとしている住民が23%ありました。今後は訓練の重要性を認識していただくことが不可欠であり、積極的にその周知やアピールを行うことが重要と考えています。

(2)訓練内容

- ・今回の訓練は、初めての全市一斉訓練でありましたが、震災の教訓を風化させないためにも「今回同様の訓練は毎年実施すべき」という意見が多い一方で、「地域毎、ブロック毎、内陸部と沿岸部」に分けて実施した方がよいのではといった意見もあり、今後検討します。

- (3)災害時要援護者 高齢者の避難方法について、指導や訓練の実施を求める意見が多かったことから高齢者、幼児や妊婦、障害者等の災害時要援護者の避難方法等について、手法やルール作りの検討を行います。

- (4)防災計画への反映 今回の検証を踏まえ、訓練方法や内容、災害時要援護者の避難のあり方等を検討し、見直しを予定している地域防災計画策定への参考とし、災害対応に役立てるものとします。

問 防災対策課(内戦4153・4168)

まちの話題

桃生地区



9月23日(日)
桃生総合センター
野球場

桃生が優勝、桃生嶺山少年野球大会

第25回桃生嶺山少年野球大会が桃生総合センター野球場等で行われ、石巻市や大崎市等から小学生野球チーム計14チームが出場しました。勝利を目指し、各チームとも全力で試合に臨んでいましたが、悪天候により試合は1回戦の途中で中止となりました。

順位は抽選で決定され、地元の桃生アスレチックスが優勝となりました。

河南地区

スポーツで
健康増進



10月5日(金)
遊楽館

河南支部老人クラブ連合会による第6回河南シニアスポーツ大会が開かれました。河南地区の老人クラブ会員約300人が参加し、スポーツを通じて健康増進を図りながら親睦を深めました。

5地域に分かれてチームを結成し、ビッグスプーンレースやフィッシングレース等、多彩な全10種目を展開。参加者は笑顔で競技を楽しみ、さわやかな汗を流しました。

行政情報

裁判員制度
まもなく名簿記載通知を発送します！

☆裁判員候補者名簿ができ
るまで

裁判員候補者名簿は、市区町村の選挙管理委員会が選挙人名簿からくじで無作為抽出した名簿を基に、全国の地方裁判所で作成されます。

平成25年分の名簿に登録される人数は、全国で約25万9,200人です。(有権者全体に占める割合は、約402人に1人)

☆裁判員候補者名簿記載通知について

平成25年の裁判員候補者名簿に登録された方には、

・名簿記載通知

・調査票

をお送りします。

※名簿記載通知は裁判員に

選ばれる可能性があること

を通知するもので、具

体的な事件の裁判員候補

者に選ばれたわけではあ

りません。

※調査書は裁判員候補者の

方の事情(辞退理由等)を

把握するためのものであ

り、項目に当てはまらない

方は返送の必要はあり

ません。

仮に調査票で辞退を申し

出なかった場合でも、裁

判員候補者に選ばれた

際や裁判の当日(選任手

続時)に辞退を申し出て

いただくことも可能と

なっています。

問 仙台地方裁判所事務局
総務課
☎ 022-222-6115 (直通)

「11月9日は119番の日」
です

119番は、火災発生時や救急・救助要請の際に住民と消防を結ぶホットラインです。病院等の問い合わせには使わないでください。

119番に電話すると、消防本部の受付員が次の順でお尋ねしますので、落ち着いてお話しください。

(1)火災・救急の別

(2)住所(場所)

住所は省略せずに正確にお話してください。

通行中等場所がわからない場合は、目標となるものを話してください。場所が確認できた時点で消防車や救急車に自動を指示しています。

(3)火災・救急の状況

次に、火災や救急の状況をお伺いします。消防車や救急車は既に出動していますので、慌てずに詳しい状況を話してください。

(4)通報者の氏名・電話番号

最後に、通報されている方の名前と電話番号をお伺いします。消防から詳細な情報を問い合わせする場合がありますので、ご協力をお願いします。

問 消防本部通信指令課
☎ 95-11304

社会保険料(国民年金保険料控除証明書)が送付されます

～年末調整・確定申告まで大切に保管を！～

国民年金保険料は、納付した全額が所得税・市町村民税の社会保険料控除の対象となります。その年の1月1日から12月31日までに納付した保険料が対象です。

このため、平成24年1月1日から9月30日までの間に納付した方は社会保険料(国民年金保険料)控除証明書が11月上旬に日本年金機構から送付されます。年末調整や確定申告の際には必ずこの証明書を添付してください。

また、年の途中から国民年金に加入した場合等、10月1日から12月31日までの間に初めて保険料を納付する方は、翌年2月上旬に送付されます。

問 石巻年金事務所
☎ 22-51117
専用ダイヤル
☎ 0570-070-117

事業主の皆さんへ
障害者雇用にご理解を
常雇用労働者数が56人以上の一般事業主は、法律により、常雇用労働者数の1.8%以上の障害者を雇用しなければなりません。

石巻管内の障害者雇用率は県内で最も低い水準にとどまっていることから、障害者の自立促進等のため、積極的な雇用をお願いします。

障害者を雇用し、一定の要件を満たした場合、奨励金や助成金が支給されます。

主な助成制度

○障害者初回雇用奨励金
障害者雇用経験のない中小企業(障害者の雇用義務制度の対象となる従業員数56人～300人規模の中小企業)が初めて障害者を雇用した場合に支給

○特定求職者雇用開発助成金
ハローワーク等の紹介により障害者を雇入れた場合、支払った賃金の一部を一定期間助成

問 ハローワーク石巻
☎ 95-10158
宮城県雇用支援協会
☎ 022-265-2076

大規模小売店舗立地法に基づく届け出の縦覧
(名称)イオン石巻ショッピングセンター(石巻市蛇田西部地区画整理事業15街区)の大規模小売店舗に係る変更の届け出内容を縦覧できます。

縦覧期限
平成25年1月21日(月)



縦覧場所
市役所3階商工観光課、県東部地方振興事務所石巻地方振興情報コーナー(石巻合同庁舎)

問 宮城県商工経営支援課
☎ 022-211-2746

倒壊・流失等建物の職権滅失登記のお知らせ
仙台法務局では、この度の震災により倒壊等した建物について、登記官の職権により滅失登記を行います。特に急がれる場合を除いては、自ら「建物滅失登記」を申請していただく必要はありませんのでお知らせします。

建物滅失登記を行った場合は、法務局より所有者の方に登記完了通知を送付しますので、その内容の確認をお願いします。

なお、建物の損壊がその一部分のため、全体が滅失したとは認定できない場合等は、職権による滅失登記の対象となりませんのでご了承ください。

詳しくはお近くの法務局にお問い合わせください。

問 仙台法務局
(フリーダイヤル)
☎ 0120-27-746

税を考える週間
税の役割と税務署の仕事
期間
11月11日(日)～17日(土)
主な行事

■税を考える週間のイベント
○税金クイズ等
○税に関する絵はがきの展示
とき
11月11日(日)
イオンモール石巻

問 (社)石巻法人会事務局
☎ 93-6704

■納税表彰式
とき 11月12日(月)
午前11時～
ところ
石巻グランドホテル
問 石巻税務署
☎ 22-4151

平成26年1月から、記帳・帳簿等の保存制度の対象者が拡大されます

事業所得等を有する白色申告の方に対する記帳・帳簿等の保存制度が、平成26年1月から改正になります。

対象 事業所得、不動産所得または山林所得を生ずべき業務を行う全ての方(所得税の申告の必要がない方も含む)

※記帳・帳簿等の保存制度や記帳の内容の詳細は、国税庁ホームページをご覧ください。

問 石巻税務署
☎ 22-4151

年末調整説明会のお知らせ
とき
11月15日(木)・16日(金)
午後1時30分～3時30分
(受付 午後1時～)
ところ
河北総合センター
ビッグバン
問 石巻税務署
☎ 22-4151

問 石巻税務署
☎ 22-4151

まちの話題

牡鹿地区 地域の伝統文化 いつまでも



9月22日(土)
羽黒会館

地域に根ざす伝統文化を絶やさず後世に伝えてほしいと、日本財団は、東日本大震災で被災した石巻地方の神楽や獅子舞の保存会等25団体に、祭事で使用する獅子頭や太鼓等の購入費約4,000万円を寄付しました。羽黒会館で贈呈式が行われ、窓口となった石巻地区文化協会連絡協議会に目録が手渡されました。

このうち牡鹿地区では、小網倉地区牡鹿神楽保存会や大原浜実業団、大谷川実業団、給分地区獅子振り保存会等12団体が支援金を受け取りました。

北上地区

笑顔を支援 ボラバス食堂



9月29日(土)
いしのみき農協北上支店

東京・横浜のボランティアによる「ボラバス食堂」が、橋浦保育所に隣接する農協北上支店敷地内で開かれました。震災後から橋浦地区で支援活動を続けるとうきょう発ボラバス応援隊と、ちょんまげ支援隊が同保育所の運動会に合わせて開いたものです。この日は住民約100人が訪れ、お好み焼きやうどん、そば等、さまざまなメニューに舌鼓を打っていました。射的や輪投げ、バルーンアート、しゃぼん玉等も子どもたちの人気を集め、たくさんの笑顔が見られました。